

EXCELLENT & DYNAMIC



2022年度 中間決算概要

代表取締役専務執行役員
管理本部長
豊原 浩



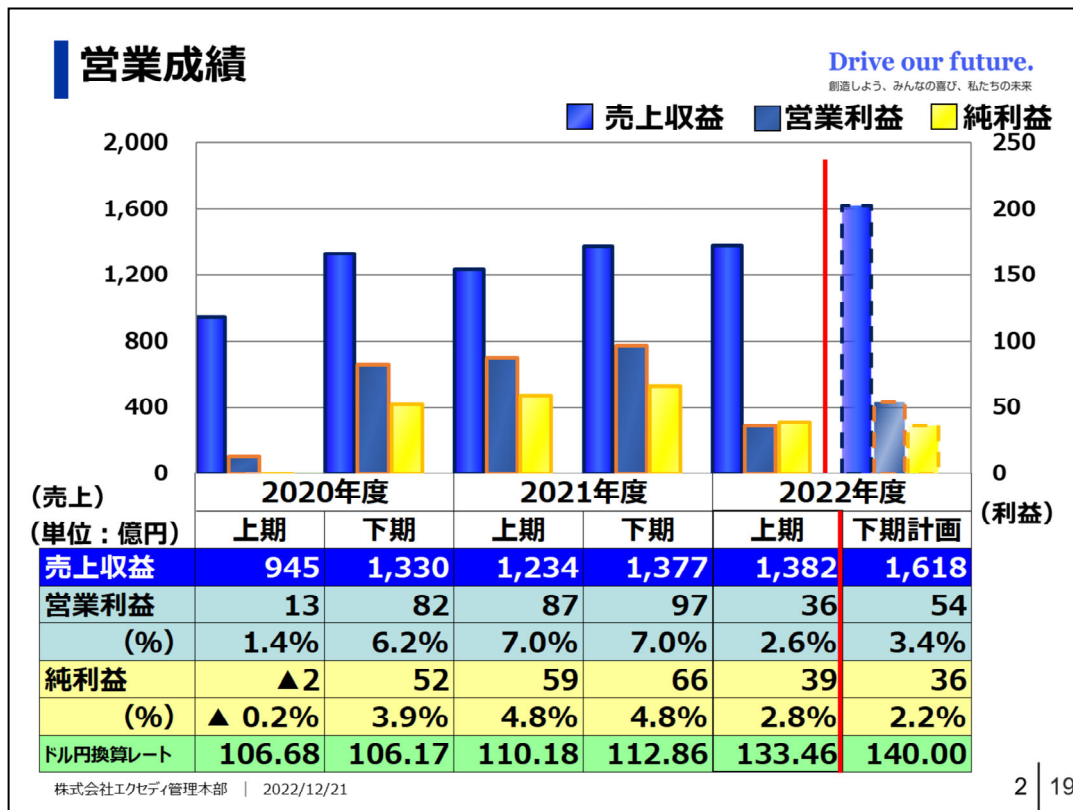
金額は億円未満を四捨五入しております。

EXEDY
株式会社 エクセディ

株式会社エクセディ管理本部 | 2022/12/21

1 | 19

2022年度上期（2022年4月1日～2022年9月30日）の決算概要、および2022年度下期及び通期（2022年4月1日～2023年3月31日）の見込についてご説明申し上げます。



2 | 19

【営業成績】

連結売上収益、営業利益、純利益の推移でございます。

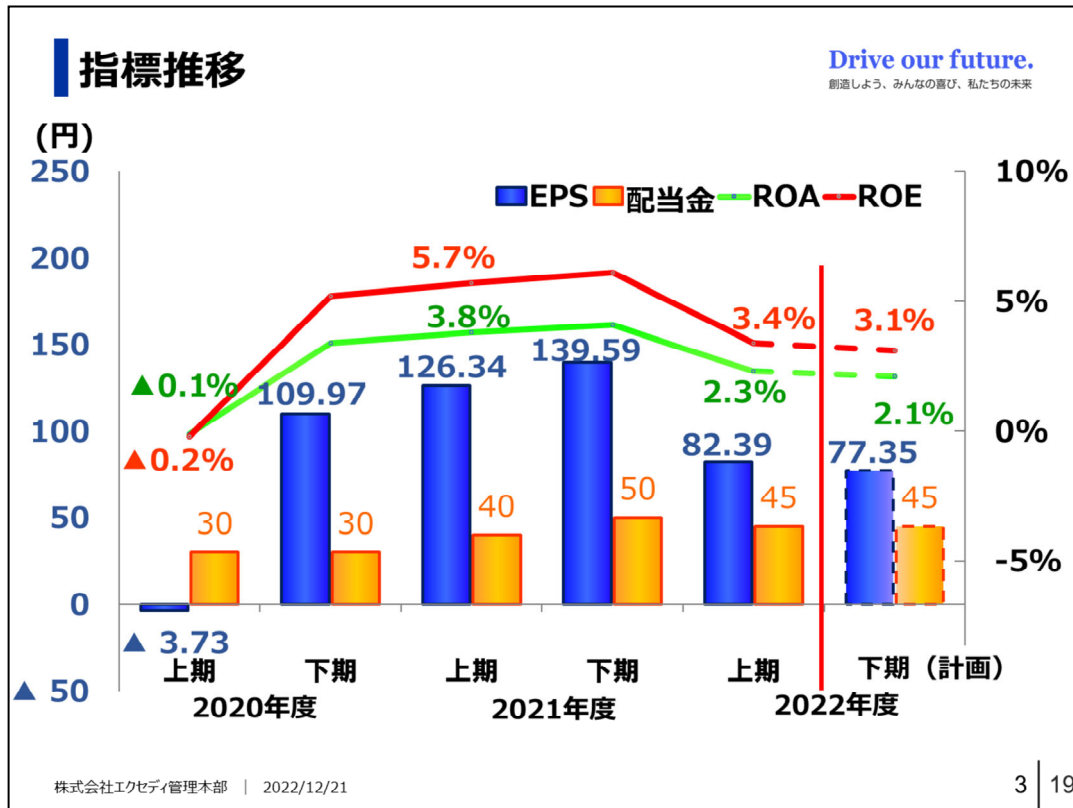
2022年度上期は、中国でのロックダウンや半導体不足の影響による受注減少の一方、円安進行による外貨建て売上の増加及び原材料価格上昇の顧客への転嫁により、売上収益は前年同期比12.0%増の1,382億円となりました。

利益面では、受注の減少及び原材料価格の上昇により、営業利益は前年同期比58.8%減の36億円、純利益（親会社の所有者に帰属する部分）は、前年同期比34.8%減の39億円となりました。

2022年度下期においては、中国、日本の受注増、為替影響、原材料価格上昇の顧客への転嫁により、売上収益は上期比17.1%増の1,618億円となる見込みです。

一方、利益面につきましては、原材料価格の更なる上昇による材料費・外注費の悪化が見込まれるものの、受注増加の影響により、営業利益は上期比51.9%増の54億円となる見込みです。純利益（親会社所有者に帰属する部分）については、営業利益は増加ながら、上期の為替差益を下期は見込まず、上期比6.1%減の36億円を見込んでおります。

従いまして、2022年度通期の見込みとしましては、売上収益 3,000億円（前連結会計年度比14.9%増）、営業利益 90億円（同50.9%減）、純利益（親会社所有者に帰属する部分） 75億円（同39.9%減）となる予定です。

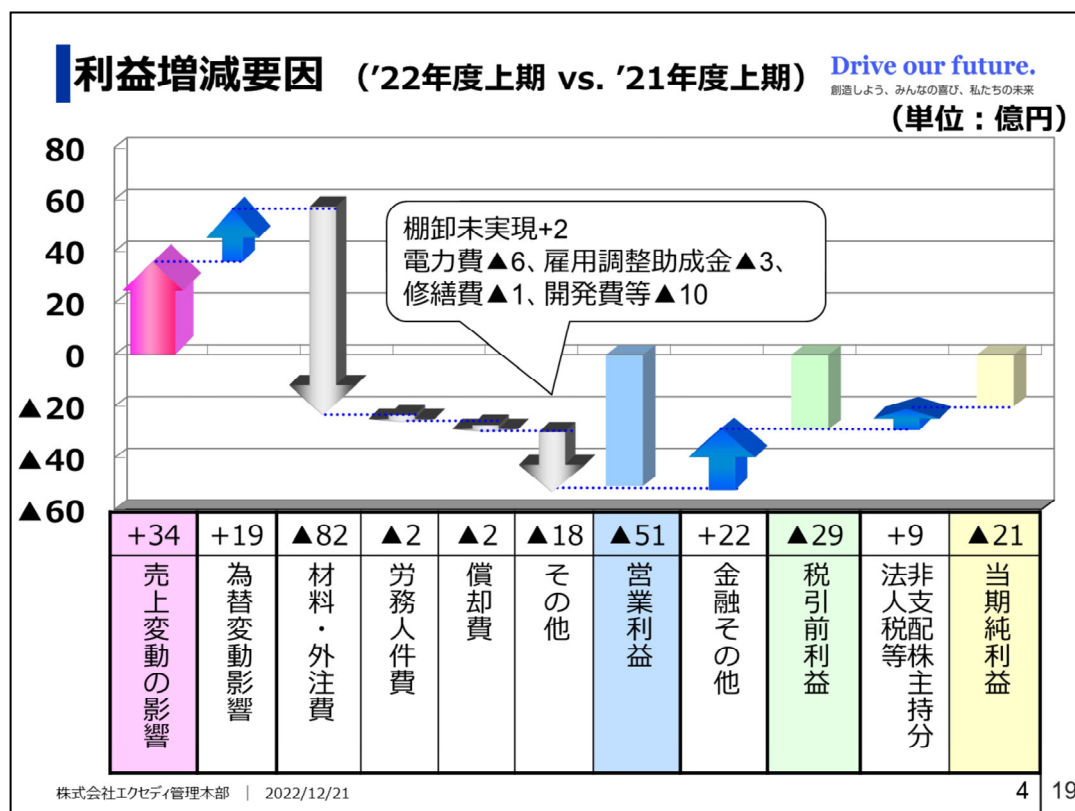


【指標推移】

ROA、ROE及び1株当たり利益（EPS）、配当金の推移でございます。

ROE、ROA、EPSにつきましては、2022年度上期においては前年同期比で減益により低下（減少）となり、2022年度下期は上期比で減益により低下（減少）となる見込みです。

配当につきましては、2022年度上期45円、下期45円の合計90円とさせていただく予定です。



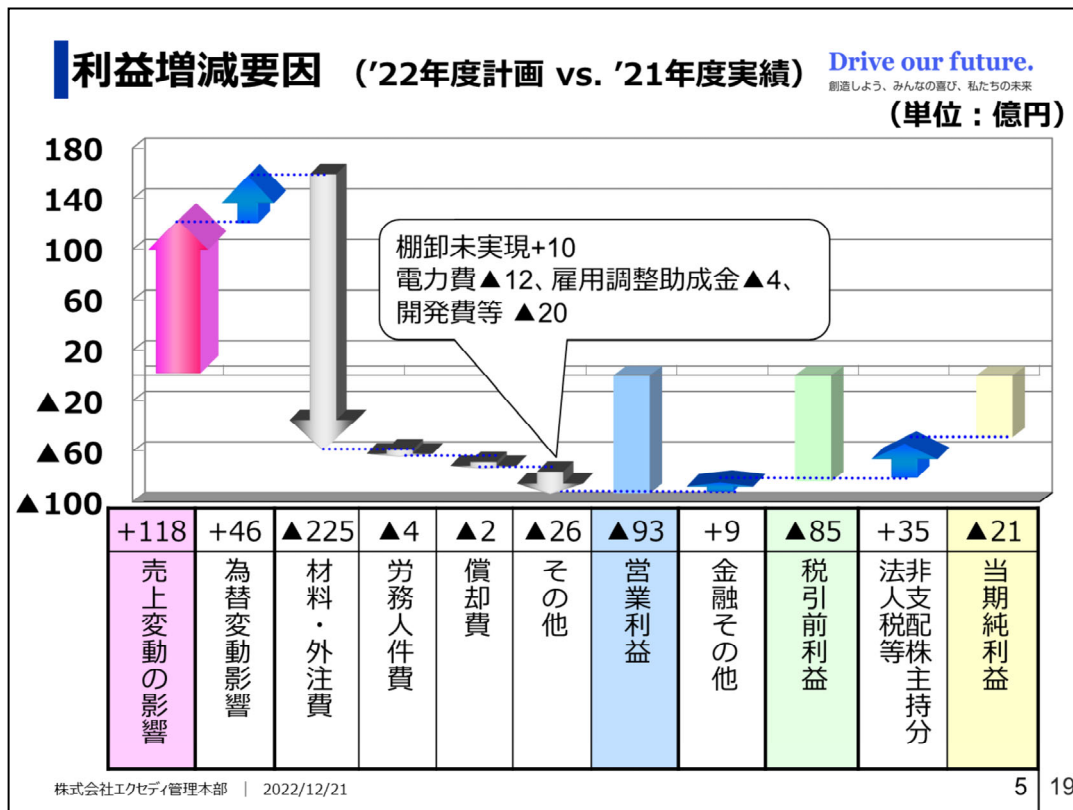
【利益増減要因（22年度上期実績vs21年度上期実績）】

2022年度上期対2021年度上期の利益増減要因でございます。

円安による利益の押し上げ効果はあるものの、半導体不足等による受注減少に加え、市況変動による原材料価格の上昇影響（販売価格への転嫁により一部相殺）が利益を押し下げております。

その他、国内外での電力費の増加、前年度上期において受給していた雇用調整助成金が当上期においては減少、設備メンテナンス等修繕費の増加といった減益要因により、前期比51億円の営業利益減少となりました。

税引前利益につきましては、営業利益の減少があるものの、円安推移による為替差益の計上により減益幅が縮小し、前期比29億円の減少となりました。



【利益増減要因（22年度通期計画vs21年度通期実績）】

2022年度通期計画対2021年度通期実績の利益増減要因でございます。

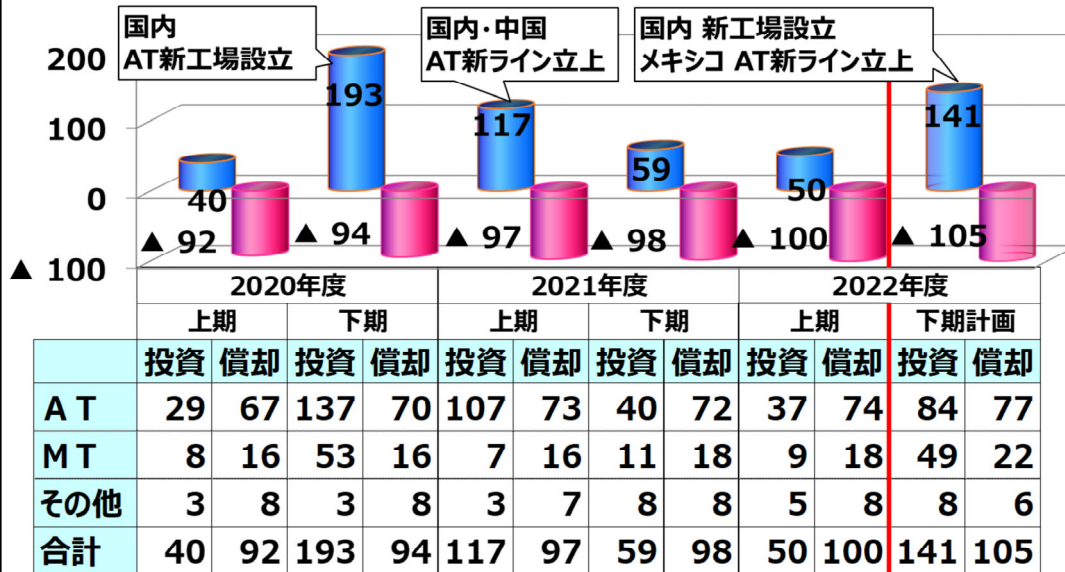
通期に関しても、上期と同様の傾向となりますが、円安影響による増益はあるものの、原材料価格の更なる上昇による材料費・外注費の悪化が見込まれます。また、電力料金等についても価格上昇が継続する見込みで、それらコスト上昇については、社内の改善・合理化だけでは賄いきれず、顧客への売価転嫁を進めてまいります。

その他、昨年度計上の棚卸未実現利益の控除は当期減少で見込んでいるなどの増益要因はあるものの、雇用調整助成金の減少、開発費等の増加といった減益要因により、営業利益は前期比93億円の減少となる見込みです。

設備投資

Drive our future.
創造しよう、みんなの喜び、私たちの未来

(単位：億円) ■ 設備投資 ■ 償却費



株式会社エクセディ管理本部 | 2022/12/21

6 | 19

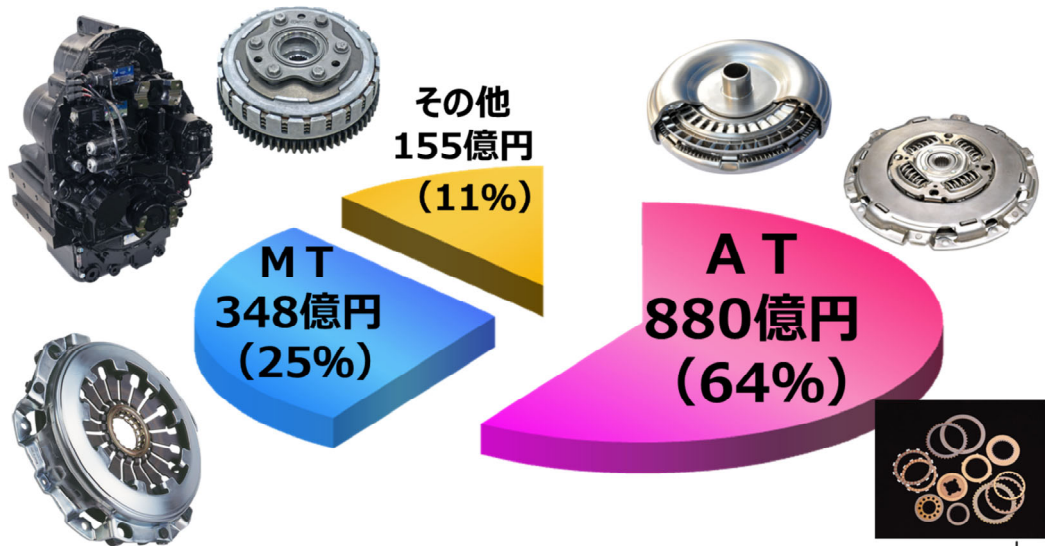
【設備投資】

設備投資と減価償却費の金額推移でございます。

2022年度上期においては、主にEXD本体での一部製品向けの能力増強等により50億円の投資、減価償却費は100億円となりました。

2022年度下期は、EXD本体において鑄造新工場の建設、およびメキシコ子会社EDMにおけるAT用新規ラインの立上を予定しております。

2022年度上期 連結売上 1,382億円



株式会社エクセディ管理本部 | 2022/12/21

【事業領域】

ここから、弊社グループの事業セグメントについて紹介させていただきます。

AT事業製品

Drive our future.

創造しよう、みんなの喜び、私たちの未来

AT 2022年度上期 連結売上

880億円
前年同期比 +11%

構成比 64%



低速ロックアップ
トルクコンバータ



プラグインハイブリッド
車用ダンパー



湿式クラッチディスク



クラッチアッシー

株式会社エクセディ管理本部 | 2022/12/21

8 | 19

【AT事業製品】

弊社の事業セグメントの中で売上収益が一番大きいのはAT（自動変速装置関連事業）でございます。

2022年度上期の売上収益は880億円、連結売上収益総額に占める構成比は64%です。

AT事業の製品は4輪のAT車で使用されるトルクコンバータ、ダンパー、クラッチ部品などでございます。ハイブリッド車用のダンパーもこのカテゴリの製品となります。

MT 2022年度上期 連結売上

348億円
前年同期比 +12%

構成比 25%



株式会社エクセディ管理本部 | 2022/12/21

9 | 19

【MT事業製品】

もう一つの事業セグメントはMT（手動変速装置関連事業）でございます。
2022年度上期の売上収益は348億円、連結売上収益総額に占める構成比は25%です。

MT事業の製品は、4輪のMT車で使用されるクラッチでございます。

【その他事業製品】

Drive our future.
創造しよう、みんなの喜び、私たちの未来

その他 2022年度上期 連結売上

155億円
前年同期比 +19%

構成比 11%



2輪車用クラッチ

建設機械・産業車両用製品



株式会社エグゼディ管理本部 | 2022/12/21

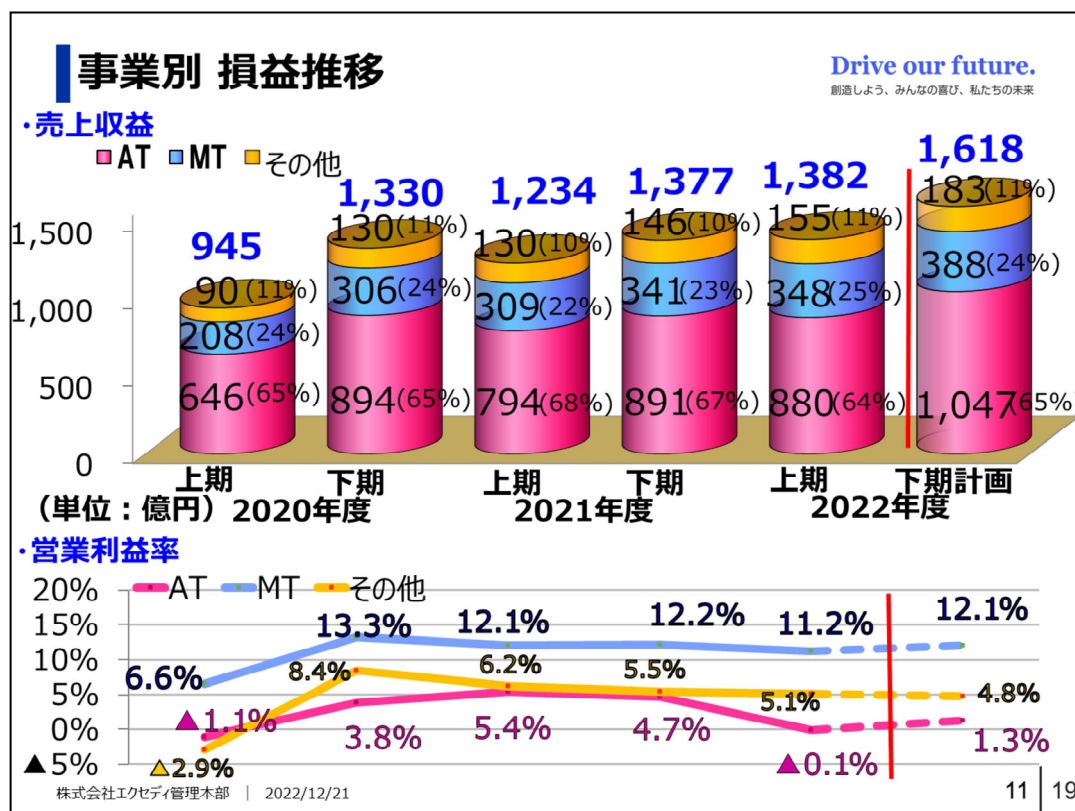
10 | 19

【その他事業製品】

AT事業にもMT事業にも属さない事業をその他事業としております。

2022年度上期の売上収益は155億円、連結売上収益総額に占める構成比は11%です。

その他事業の製品は、建設用・産業用機械向けの駆動伝導装置や2輪車用クラッチ、運送業などを含んでおります。



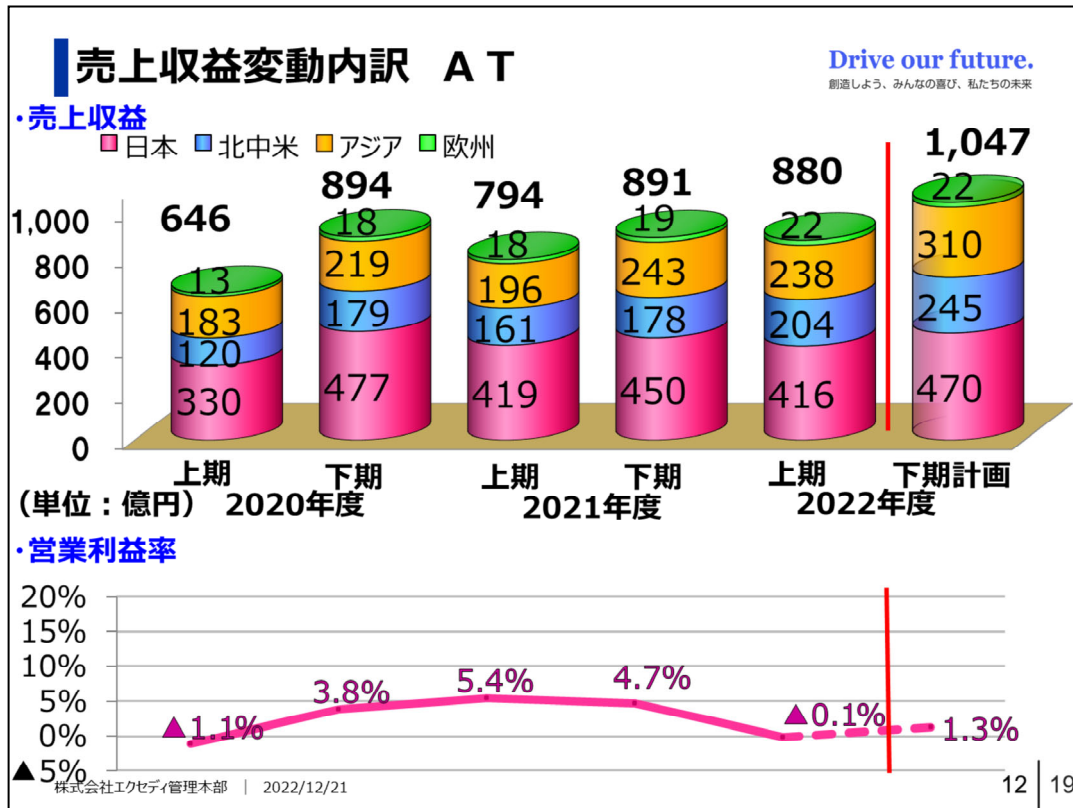
【事業別 損益推移】

事業セグメント別の売上高と営業利益率の推移でございます。

2022年度上期は、前年同期比で受注が減少しておりますが、為替影響・鋼材価格上昇の顧客への転嫁影響により全ての事業セグメントにおいて増収となりました。

利益については、受注の減少と原材料価格の上昇による材料費・外注費の悪化により各セグメントの営業利益率は低下、特にATセグメントについては赤字となりました。

2022年度下期においては、各事業セグメントとも上期比で増収となり、為替影響・鋼材価格上昇の顧客への転嫁影響だけではなく、受注の増加が見込まれるため、MT・ATセグメントにおいては利益率上昇が見込まれます。



【売上収益変動内訳 AT】

AT事業セグメントの売上収益を地域別に見たものでございます。

2022年度上期においては、全地域で前年同期比増収となりましたが、これは主に為替影響・原材料価格上昇の顧客への転嫁によるもので、受注としては減少傾向です。

2022年度下期においては、中国、日本での受注増を見込んでおり、原材料価格上昇の影響はあるものの、顧客への転嫁を進めることで影響を抑制することにより、若干の利益率上昇を目標としております。

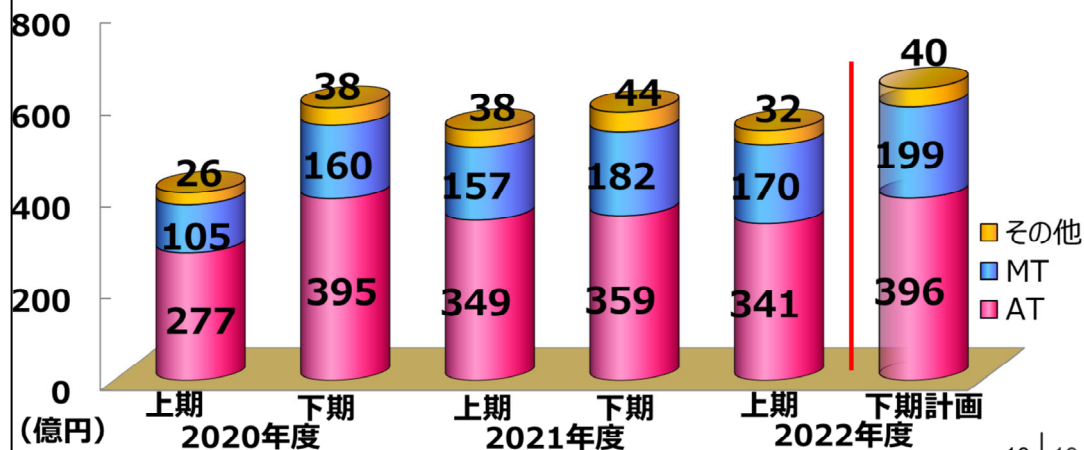
エクセディ (EXD)

Drive our future.

創造しよう、みんなの喜び、私たちの未来

(単位：億円)

期 間	2020年度		2021年度		2022年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期計画
売上収益	408	593	544	584	544	636
営業利益(率)	▲6 ▲1.4%	33 5.5%	30 5.6%	33 5.7%	3 0.6%	17 2.6%
税引前利益(率)	14 3.4%	49 8.2%	64 11.8%	44 7.6%	73 13.5%	12 1.9%
純利益(率)	11 2.6%	41 6.9%	53 9.7%	34 5.9%	64 11.7%	11 1.8%



株式会社エクセディ管理本部 | 2022/12/21

13 | 19

【エクセディ (EXD)】

ここからしばらく、AT事業セグメントの主要各社の業績推移をご覧ください。
まず、弊社エクセディでございます。

2022年上期は前年同期比で減収となり、2022年度下期においては上期より増収となる見込みです。

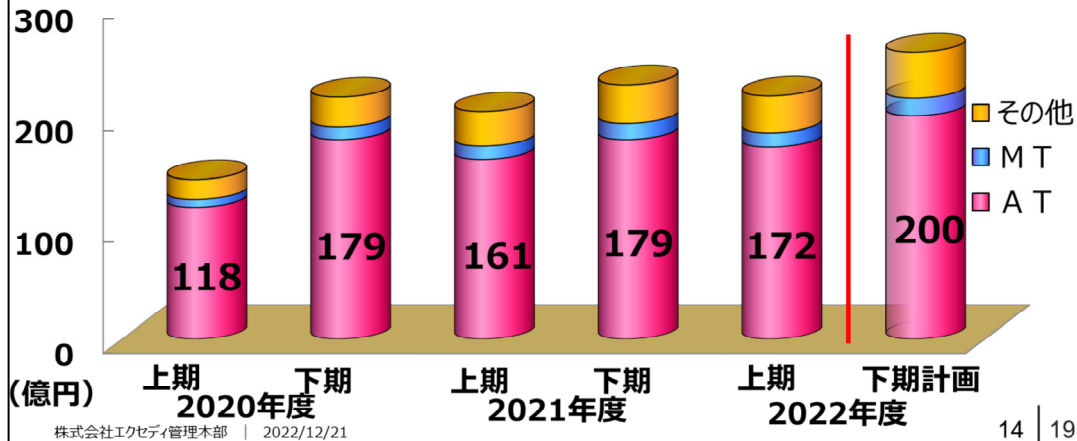
利益については、2022年度上期は受注減少及び原材料価格上昇の影響により前年同期比で利益は減少、2022年度下期は受注が増加し、利益も回復するものの、更なる原材料価格上昇の影響を受けるため、利益率は2021年度の水準までは回復しない見込みです。

ダイナックス (DNX)

Drive our future.
創造しよう、みんなの喜び、私たちの未来

(単位：億円)

期 間	2020年度		2021年度		2022年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期計画
売上収益	143	217	204	228	219	257
営業利益(率)	▲2 ▲1.7%	28 13.0%	18 9.0%	20 8.9%	12 5.5%	2 0.8%
純利益(率)	1 0.8%	18 8.3%	15 7.5%	19 8.3%	14 6.2%	2 0.6%



【ダイナックス (DNX)】

弊社グループ最大の子会社、北海道にあるダイナックスでございます。

2022年度上期は、EXDと同様原材料価格上昇の影響により、前年同期比で増収減益、下期は上期比で増収ながら、為替及び原材料価格上昇の顧客への転嫁によるもので、受注の増加は見込まれず、更に原材料価格上昇の影響も受けるため、利益率は低下する見込みです。

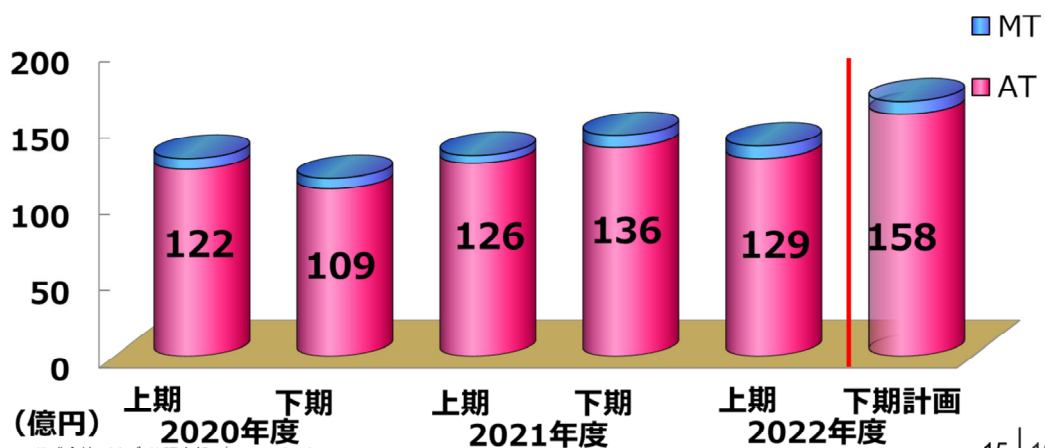
エクセディ ダイナックス 上海 (EDS)

Drive our future.

創造しよう、みんなの喜び、私たちの未来

(円貨：億円 外貨：百万円)

期 間	2020年度		2021年度		2022年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期計画
売上収益(外貨)	132 (865)	144 (899)	137 (805)	175 (969)	176 (886)	232 (1,139)
営業利益(外貨)	9 (57)	12 (78)	7 (41)	18 (99)	5 (25)	12 (60)
純利益(外貨)	5 (34)	8 (50)	4 (22)	13 (72)	4 (19)	8 (38)



株式会社エクセディ管理本部 | 2022/12/21

15 | 19

【エクセディダイナックス上海 (EDS)】

中国、上海に所在するエクセディダイナックス上海でございます。

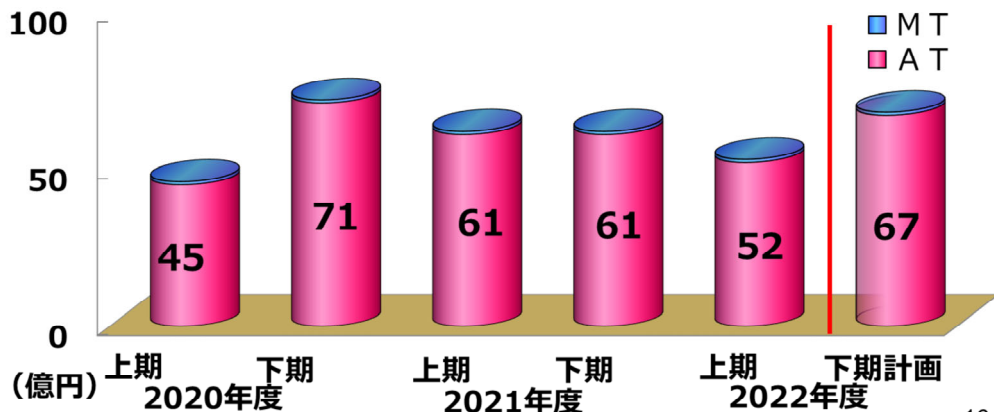
中国拠点については、2022年度第一四半期においてはロックダウンの影響により売上は大きく減少しましたが、ロックダウン解除後に受注も回復、更に原材料価格上昇の顧客への転嫁なども実施した結果、2022年度上期は前年同期比で増収となりました。

2022年度下期は上期比で受注の増加及び原材料価格上昇の顧客への転嫁もあり、増収の見込みです。利益については、増収による増益効果はあるものの、原材料価格の上昇影響により2022年度水準には回復しない見込みです。

エクセディ ダイナックス メキシコ (EDM) Drive our future. 創造しよう、みんなの喜び、私たちの未来

(円貨：億円 外貨：百万USD)

期 間	2020年度		2021年度		2022年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期計画
売上収益(外貨)	46 (43)	73 (69)	62 (56)	63 (54)	53 (40)	71 (49)
営業利益(外貨)	▲2 (▲2)	▲42 (▲40)	▲0 (▲0)	▲4 (▲3)	▲2 (▲1)	▲5 (▲4)
純利益(外貨)	▲1 (▲1)	▲30 (▲29)	0 (0)	▲4 (▲2)	▲2 (▲1)	▲4 (▲3)



株式会社エクセディ管理本部 | 2022/12/21

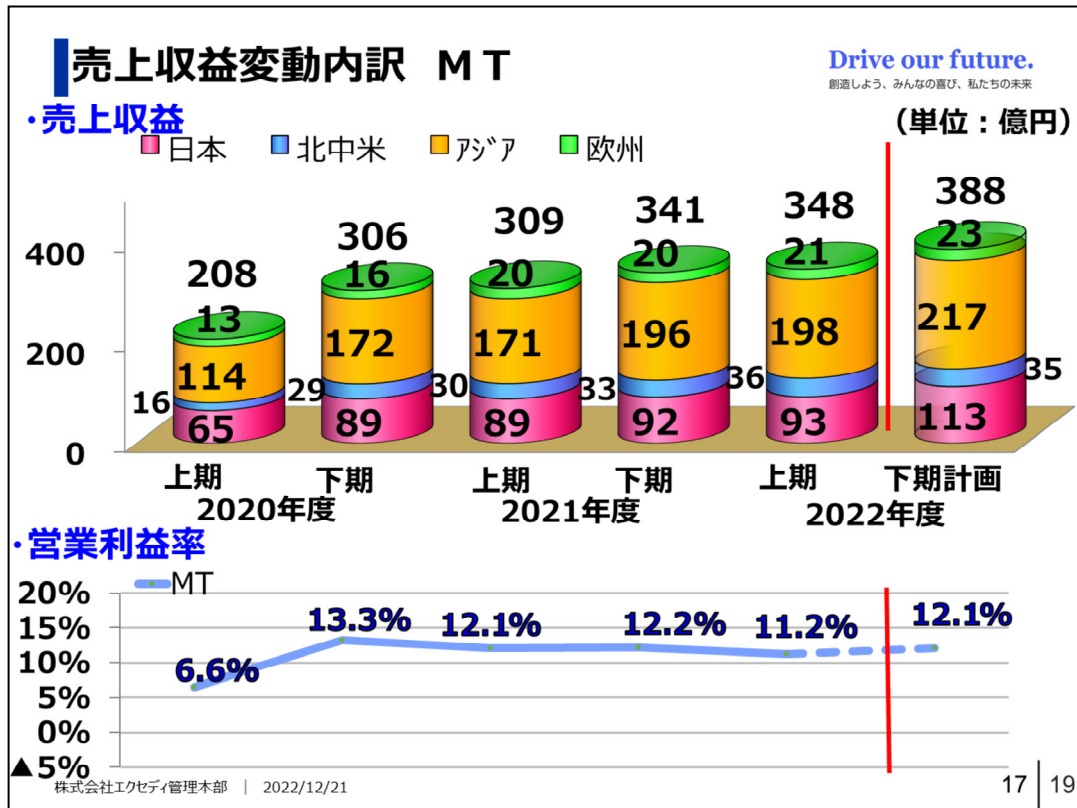
16 | 19

【エクセディダイナックスメキシコ (EDM)】

メキシコ、アグアスカリエンテスにあるエクセディダイナックスメキシコです。

2022年度上期は半導体の不足による受注減少により、前年同期比減収、赤字幅は拡大しました。

2022年度下期は新規ラインの立上げにより上期比で増収の見込みであるものの、原材料価格の上昇及び一過性費用の計上等により減益の見込みです。

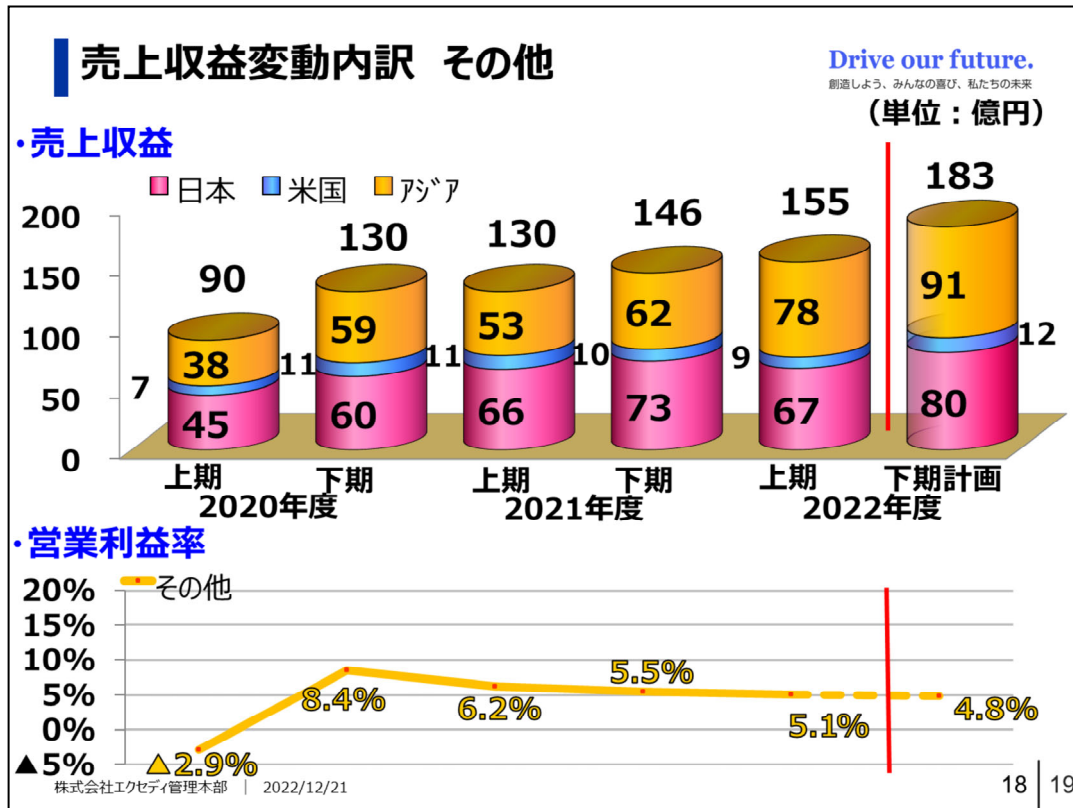


【売上収益変動内訳 MT】

MT事業セグメントの売上収益を地域別に見たものがございます。

2022年度上期は、全地域で前年同期比増収ではあるものの、原材料価格の上昇影響により営業利益率は低下しました。

2022年度下期は、原材料価格の更なる上昇の影響はありつつも、全拠点で増収の見込みにより、利益率は回復する見込みです。



【売上収益変動内訳 その他】

その他事業セグメントの売上収益を地域別に見たものがございます。

2022年度上期は前年同期比増収、他のセグメントと同様、原材料価格の上昇の影響により営業利益率は低下しました。

2022年度下期は、アジアの2輪を中心に上期比増収となる見込みではあるものの原材料価格の上昇により、営業利益率は若干低下する見込みです。

ご清聴ありがとうございました。



以上、2022年度上期の決算概要、および2022年度下期及び通期の見込についてご説明申し上げます。

ありがとうございました。

なお、本資料以外にも下記の資料を公開しておりますので、ご覧ください。

- ・ 2022年度中間決算報告：弊社社長の吉永より、中期的な数量見込や長期的な取り組み内容などについてご説明申し上げます。
- ・ EXEDY NOW : 連結・単体の財務諸表やグループ各社の財務数値などを記載したデータブックでございます